



JSQC ニュース

No.257

発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス ISO9001の次のステップ
- 2-私の提言 品質の測定も重視しよう
- 2-ルポルターージュ 第92回講演会ルポ(本部)
- 3-第34年度事業計画 / ICQ論文募集 / 第294回事業所見学会ルポ(関西)
- 4-研究助成募集のお知らせ / 品質賞受賞 / 11月の入会者紹介 / 行事案内

ISO9001の次のステップ 日本品質奨励賞

日本品質管理学会 広報委員長 山崎 正彦

ISOの審査登録をした組織が、4万件に迫ろうとしている。しかも、年々増加傾向にある。驚くべきことである。しかし、既に審査登録を終えた企業や組織の中には、ISOの次のステップをどうするかを考えている企業も見受けられる。今年度の品質管理学会の方針で「Q-JAPAN」が示され、強い製品競争力で日本の再生を図っていく構想が打ち出された。この実現に向かって、全社的品質管理活動を推進するのにもひとつの方法である。そこで、ISOに取り組んだ企業が次のステップで比較的取り組みやすい「日本品質奨励賞」を紹介する。

1. 日本品質奨励賞とは

日本品質奨励賞は日本科学技術連盟が創立50周年を契機に、日本企業の競争力強化、品質経営の推進支援を目的として、2000年に設立され、今年で5年を迎える。受賞会社は既に21社を数える。

本賞はTQM奨励賞と品質技術革新賞に分かれており、企業がそのいずれかを選択し、受審する(図1)。これ

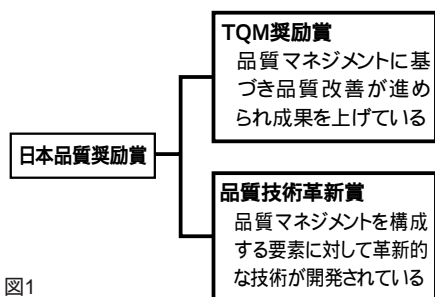


図1

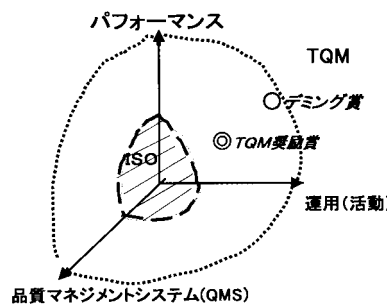


図2 ISOとTQMの関連

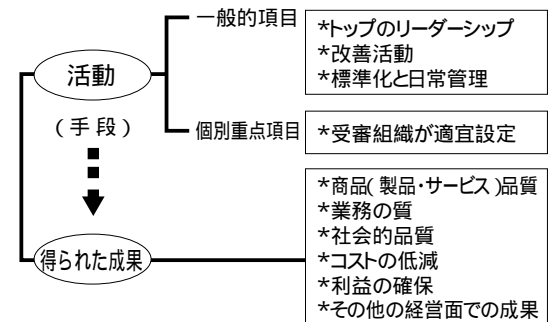


図3 評価する内容

までにTQM奨励賞は17社が受賞しており、うち14社がISO9000の審査登録を実施している。

2. ISOとTQMの関連

日本品質奨励賞のうち、TQM奨励賞はISOの範囲(図2の斜線の部分)を更に品質マネジメントシステム、運用(活用)、パフォーマンスの各軸の方向へ成長させていく過程に位置しており、デミング賞との中間に位置するイメージとなっている。

3. TQM奨励賞の枠組み

TQM奨励賞は「しくみが存在する」だけではなく、実際に「活動」し、その活動から得られる「成果」に対して評価される。

4. TQM奨励賞受賞会社の声

1) TPM、ISOで製造会社としてのシステム構築が成され、システムの舵取りであるマネジメントが必要な時期にTQM奨励賞のチャレンジとなり、タイミングがよかった。

(2001年度 ミツクラテックス(株))



2004年度 授賞式にて

2) 医療関係の業務を担当しているが、受賞への取り組みで最も大きな効果は、重要課題の明確化であった。当社の進むべき方向を再確認する良い機会となった。

(2002年度 ㈱クロス・ロード)

3) 親会社(サンデン)がデミング賞を受賞し、全サンデングループでTQMを推進しており、当社は「人材の育成」にポイントを絞って受審した。

(2003年度 ㈱三和)

5. 「日本品質奨励賞」の問合せ先
 日本品質奨励賞委員会事務局

TEL : 03-5378-1215 URL : http://www.juse.or.jp

私の提言

品質の測定も重視しよう

東京理科大学理工学部 尾島 善一



日本品質管理学会の会員の皆さんは品質に関心を持ち、品質管理や品質保証の重要性を強く認識していることと思います。品質を管理する

場合でも、品質を保証する場合でも、まず品質を測ることが前提になります。

品質を測るには、その品質を的確に表す品質特性の選択と、選択された品質特性の測定に関する問題が解決されていなければなりません。

一般に、測定結果には関心が高いのですが、測定方法には無関心になる傾向があるようです。テレビ番組の視聴率や、景気の動向を示す指数、

入学試験の得点、顧客満足度調査の結果、各種のアンケート調査の結果など、どれについても、結果には関心を示す人が多いですが、これらがどのようにして測られているかを知っている人は少ないと思われます。無関心の結果、その種の計測では、本来の計測の目的に合致しているかよりも、コスト・手間が掛からないことが優先されがちです。

測定結果の要求品質は、その測定結果を誰が何のために用いるかという目的に従って決まります。その目的に適合する対象が選ばれているかという問題はサンプリングの問題として議論されなければなりません。顧客の使用状況の調査を本社周辺の顧客について調べたのでは使用地域による影響を無視してしまいます。

ついコストや手間を考慮して簡単に済ませようとする、近場で間に合わせたくなるものです。測定方法の選択も同様で、対象とする品質を良く表現する特性よりも、手軽に測定できる特性を選んでしまう傾向は無視できません。

選択された品質特性の測定に関しては、測定の精度の問題を検討する必要があります。ここでも本来の目的を見失って、コスト優先になることや、逆に測定そのものが目的になって過剰に良い精度を追求することがあります。

データに基づく管理は、品質管理の特長の一つです。この“データ”は単なる数値という意味ではありません。客観的な事実を反映したデータであることに意味・価値があるので、そのために、計測の品質向上は重視されなければならない課題です。

計測の品質向上は、品質に理解と関心を持つ人々が、測定の方法や測定状況に興味を示すことによって、促進されるのです。

第92回本部
講演会ルポ『中国の最新事情』
品質管理と経済から中国
を考える

1. はじめに

2004年10月12日、(社)日本品質管理学会主催による第92回講演会が掲題のテーマにて、(財)日本科学技術連盟・東高円寺ビルにおいて開催された。時宜を得たものであったせいか、120余名の大勢の参加を得、事業委員長・神田範明氏の司会により、開始時刻早々始められた。

講演 1 中国の品質管理の実態

《講演者》市川享司(パワーアップ研究所)

講演 2 中国の最新事情

《講演者》関 光博(一橋大学 教授)

2. 講演会の主旨

中国の経済発展は近年目覚しく、かつてのわが国を上回るスピードで進歩し、「世界の工場」が近代的な企業へと急速な変貌を遂げつつある。そのため多くの

人々から「一年前の知識が通用しない」、「当該国の考え方や変化の背景が分からない」など様々な中国をめぐる最新且つ正確な情報を求める声が高まってきている。このようなニーズに応え企画されたものである。

3. 各講演の内容

講演 1 中国質量協会(1979年設立)との付き合いの中で得た知見をベースに、次の内容で行われた。

- 1) 中国品質管理賞の設立及びその目的と背景
- 2) 中国の小集団活動の実態

講演 2 90年初頭より始めた中国経済産業の調査活動に基づいて著された著述は、代表作だけで10冊に余る。中国経済第一人者である。様々な切り口から、尽きることのない多様な話題は、聴衆を魅了した。大きく二つのテーマについてお話しいただいた。

- 1) 「日本を買う中国」
 - 狙いは日本保有の高度技術獲得戦略にあり
- 2) 「中国進出台湾企業は中国に何を求めているか」
 - 日本、台湾の投資意欲及び戦略性の根本的違い

芳野 康夫(アジア航測株)

(社)日本品質管理学会第34年度事業計画

行事 / 月	H16 10月	11月	12月	H17 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
研究発表会								第77回本部 27-28日(土)		第78回中部		第79回関西	
年次大会・通常総会	第34回10/30 電気通信大学												第35回10/29 or11/5 関西地区
講演会	第92回本部 12日(火)					第93回中部	第94回関西		第95回中部				
シンポジウム						第101回 本部			第102回 関西	第103回 本部 第104回 中部		第105回 本部 第106回 関西	
事業所見学会	本部				第303回		第305回		第308回				
	中部			第302回			第306回		第310回				
	関西 <small>第300回21(木) 中之島新線 土木工事</small>				第304回		第307回		第309回		第311回		
クオリティパブ		第44回 25日(木)		第45回 21日(金)		第46回		第47回		第48回		第49回	
その他の行事											13YSS	19AQS 台北18-21	
会合 / 月	H16 10月	11月	12月	H17 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
理事会	346回 12日(火)		347回 14日(火)			348回 3日(木)		349回 17日(火)		350回 15日(金)		351回 12日(月)	352回 13日(木)
庶務・会員サービス・規定・ 広報・Web・会計合同委員会	7日(木)		7日(火)		23日(木)								
論文誌編集委員会	6日(水)	10日(水)	1日(水)	12日(水)	9日(水)	2日(水)	6日(水)	11日(水)	8日(水)	6日(水)	3日(水)	7日(水)	5日(水)
学会誌編集委員会	1日(金)	26日(金)			4日(金)	3日(木)		17日(火)	10日(金)				7日(金)
事業委員会	1日(金)	17日(水)	10日(金)	7日(金)	8日(火)								

論文投稿は委員会の10日前までをお願いいたします。直前の投稿では審査が遅れることがあります。



第294回関西 事業所見学会 ルポ

関西国際空港 2期工事の施工管理技術

- 2004年4月23日(金)第294回事業所見学会が、関西国際空港で行われた。
- 関西支部では開港前の1994年にも訪問しており、今回は2度目の空港見学となった。
- 現在工事中の2期工事は、2007年の供用開始を目指し現在の関西国際空港の沖合に約545haの用地造成工事を行っている。
- 現在の空港島は米国土木学会からパナマ運河などと並んで20世紀を代表する「世紀の偉業」の一つに選ばれた事業だが、2期工事は自然環境や埋め立てによる沈下量など更に厳しい条件の中で進められている。

環境に対しては、ISO14001の認証登録を更新し、今後も、さらなるEMSの運用と継続的改善を図り、環境汚染の予防と地球環境に優しい環境の創造に努めている。

また、GPSや面的な深淺測量システムなどの、最新の埋立施工管理システムを用いることによって、不同沈下のないよう埋立地の厚さをできるだけ均一に仕上げようとする管理を慎重に行っている。

環境や施工管理技術の説明のあと、全員で見学ホールから2期空港島造成工事のスケールの大きさを改めて実感した。

帰りには空港島をバスで一周し、現在の空港島の建物の地下にあるジャッキアップの様子なども見学した。

国際ハブ空港としての能力充実が求められている関西国際空港だが、2007年の供用開始を楽しみにしたい。

小林 昭夫 (日本科学技術連盟)

品質国際会議(ICQ'05 -Tokyo)論文募集締切迫る！

日科技連では、2005年9月13日～16日にICQ 05 -Tokyoを開催いたします。

発表申込締切：2005年1月3日(月) 詳細 <http://www.juse.or.jp/>

- 1.論文タイトル、2.英文要旨250ワードと日本語要旨、3.キーワード(3項目)のほか、必要事項をご提出ください。

事務局からのお知らせ

(社)日本品質管理学会30周年記念事業
第34年度研究助成募集要項

1. 趣 旨

21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

2. 助成金額：1件10万円 5件以内

3. 期 間：1年間（第34年度：平成16年10月～平成17年9月）

4. 募集の対象

選考時に申請者が(社)日本品質管理学会の正会員もしくは準会員であり、次のいずれかの条件を満たす者とします。

- (1)申請時に35歳以下であり、大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究活動に従事する者。
- (2)申請時に日本の大学院に在籍する外国籍の留学生。
- (3)申請時に35歳以下であり、海外の大学、研究所、研究機関、教育機関等において品質管理についての研究活動に従事する者で(社)日本品質管理学会の主催する諸行事、または品質管理に関連する研究集会に参加しようとする者。ただし、申請は招聘者が行うこととします。

5. 助成対象：品質管理に関連した研究

6. その他の申請条件

- (1)報告書は所定の様式で提出してください。
- (2)研究成果を当学会誌へ投稿、あるいは研究発表会などで発表することを奨励します。
- (3)学生が申請をする場合、申請時に指導教官・指導教員の所見を必要とします。

7. 申請方法

所定の「(社)日本品質管理学会 研究助成交付申請書」を用いてください。申請書の様式はホームページを参照してください。

8. 募集期間：平成16年12月～平成17年3月末日

9. 選考方法

(社)日本品質管理学会研究助成特別委員会による書類審査

10. 決定通知：平成16年4月下旬

11. 申請書提出先

(社)日本品質管理学会 本部事務局

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL：03-5378-1506 FAX：03-5378-1507

E-mail：office@jsqc.org URL：www.jsqc.org/

豊田章一郎氏、狩野紀昭氏がAPQOの品質賞を受賞！

環太平洋品質機構（APQO）から今年度のWalt L. Hurd Executive Medalを豊田章一郎氏（トヨタ自動車(株)取締役名誉会長・JSQC名誉会員）が、Harrington-Ishikawa Executive Medalを狩野紀昭氏（東京理科大学教授・JSQC元会長）が受賞されました。

Walt L. Hurd Executive Medalは品質経営に卓越した経営者に与えられる賞で、日本人としては1996年の米山高範氏、2000年の西村公一氏以来3人目の受賞となります。

Harrington-Ishikawa Executive Medalは品質に関する調査、出版、学問に卓越した研究者に与えられる賞で、日本人としては1998年の近藤良夫氏に次いで受賞となりました。受賞おめでとうございます。

APQOホームページ <http://www.apqo.org/>

2004年11月の
入会者紹介

2004年11月16日の資格審査において、下記の通り正会員18名、準会員4名の入会が承認されました。

(正会員18名) 後藤 暁雄(三菱電機エンジニアリング) 太田 雄一(日東シンコー) 伊藤 恵・高畑 明敏(住友重機械工業) 西林 秀幸(日本触媒) 太田 久彦(日本医科歯科大学) 張 曉東(北京科立特管理コンサルティング) 杉館 俊彦(秋田県立秋田東高等学校) 服部 裕・三

苫 孝文(竹中工務店) 角谷 幹彦・皆川 清彦(アイシン精機) 河野 博哉・兵藤 正哉・安田 義則(豊田自動織機) 飯田 一郎(コーセー) 長崎 俊夫(住友電気工業) 高橋 輝江(日本科学技術連盟)

(準会員4名) 長谷川 繁(電気通信大学) 朴 紅福・姚 瑶(山梨大学) 塚本 悠(東海大学)

正 会 員：2957名
準 会 員：148名
賛助会員：171社198口
公 共 会 員：22口

行 事 案 内

第45回クオリティパブ(本部)

テーマ：競争優位のための質マネジメントシステム設計

ゲスト：飯塚 悦功氏(日本品質管理学会会長・東京大学 教授)

日 時：2005年1月21日(金)18:00～20:30

会 場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階ラウンジ

参加費：会員3,000円 非会員4,000円
準会員・学生一般 2,000円
(含軽食・当日払い)

詳 細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

定 員：30名

第101回シンポジウム(本部)予告

テーマ：Q-Japan構想(仮題)

日 時：2005年3月下旬

会 場：都内調整中

定 員：200名

*2005年1月に開催案内を送付予定です。

行 事 申 込 先

本 部：166-0003 杉並区高円寺南1-2-1
(財)日本科学技術連盟

東高円寺ビル内
(社)日本品質管理学会

TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯：090-9128-7979